

# みずほマーケット・トピック(2014年1月31日)

## 週末版

### 内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

#### 1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は揉み合い推移。週初 27 日に 102 円台前半でオープンしたドル/円は、前週末のアルゼンチンペソの急落を背景とした新興国資産売りでリスク回避ムードが強まる中、ストップを巻き込み一時週安値となる 101.77 円をつけ、その後も 102 円台後半で上値重く推移した。28 日には、5 か月ぶりの高水準まで改善した米 1 月消費者信頼感指数を好感したドル買いを受け、ドル/円は 103 円台まで上昇。さらに 29 日にかけては、トルコ中銀の臨時会合において市場予想を大きく上回る利上げが行われたことで新興国通貨への懸念が一旦後退し、ドル/円は一時週高値となる 103.45 円まで上昇した。その後、南アフリカ中銀も 5 年ぶりの利上げに踏み切る動きなども見られたが、市場は再びリスクオフムードとなり、ドル/円は再び 102 円割れとなる乱高下の展開に。注目の FOMC は予想通りの QE 縮小となったものの、これを受けて株式市場は下げ足を速め、ドル/円は 101 円台後半で軟調地合いが続いた。30 日には、NY ダウ平均の反発などを背景にドルを買い戻す動きも強まり、ドル/円は 102 円台後半を回復。本日にかけては、新興国通貨の下落も一服する中で、月末の本邦輸入企業のドル買いも見られ、ドル/円は 102 円台後半で底堅く推移している。
- ・今週のユーロ/ドル相場は週後半に急落する展開。週初 27 日に 1.36 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる 1.3716 をつけるも、上値は重く方向感に乏しい地合い。翌 28 日は、米 1 月消費者信頼感指数の良好な結果を好感したドル買いが強まり、ユーロ/ドルは 1.36 台後半まで小幅に水準を切り下げた。29 日にかけては、トルコ中銀の大幅利上げで新興国通貨売りは一旦止んだものの、それも長くは続かず、新興国の資産価格が大崩れとなる中でユーロ/ドルは 1.36 近辺まで値を落とした。この間、ノイエム中銀総裁のユーロ高牽制発言もユーロの重石となった。30 日には、独 1 月消費者物価指数が予想ほど伸びなかったことが嫌気されてユーロ売りが進み、ユーロ/ドルは一時週安値となる 1.3544 まで下落。本日にかけても前日の流れを引き継ぎ、ユーロ/ドルは 1.35 台半ばの安値圏で推移している。

#### 今週のおもな金融市場動向

		前週末	今 週			
		1/24(Fri)	1/27(Mon)	1/28(Tue)	1/29(Wed)	1/30(Thu)
ドル/円	東京9:00	103.39	102.10	102.68	103.25	102.28
	High	103.58	102.93	103.26	103.45	102.89
	Low	102.00	101.77	102.49	101.85	102.03
	NY 17:00	102.39	102.55	102.93	102.26	102.71
ユーロ/ドル	東京9:00	1.3689	1.3687	1.3674	1.3654	1.3657
	High	1.3740	1.3716	1.3689	1.3685	1.3666
	Low	1.3663	1.3653	1.3629	1.3603	1.3544
	NY 17:00	1.3678	1.3672	1.3670	1.3665	1.3555
ユーロ/円	東京9:00	141.50	139.89	140.39	140.99	139.66
	High	141.77	140.69	140.99	141.26	139.94
	Low	139.76	139.25	140.21	139.04	138.90
	NY 17:00	139.95	140.23	140.71	139.75	139.21
日経平均株価	15,391.56	15,005.73	14,980.16	15,383.91	15,007.06	
TOPIX	1,264.60	1,229.23	1,224.31	1,256.18	1,224.09	
NYダウ工業株30種平均	15,879.11	15,837.88	15,928.56	15,738.79	15,848.61	
NASDAQ	4,128.17	4,083.61	4,097.96	4,051.43	4,123.13	
日本10年債	0.63%	0.64%	0.63%	0.64%	0.63%	
米国10年債	2.72%	2.75%	2.75%	2.68%	2.69%	
原油価格(WTI)	96.64	95.72	97.22	97.42	97.99	
金(NY)	1,264.50	1,256.60	1,256.40	1,269.10	1,243.50	

#### ドル/円相場の動向



#### ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- 来週にかけての米経済指標では、2月7日(金)に1月雇用統計に注目が集まる。12月は非農業部門雇用者数(NFP)が前月比7.4万人増と市場予想の同19.7万人増を大きく下回る想定外の弱さとなった。但し、天候要因が影響したとみられるほか、過去分が上方修正されており、単月の数字だけで悲観的になるのは尚早だろう。1月の雇用統計では、毎年恒例の年次改訂が行われることから、その結果を踏まえて基調判断を行いたい。先行計数を確認しておく、1月ニューヨーク連銀製造業景気指数の雇用項目が大きく上昇したほか、1月フィラデルフィア連銀製造業景気指数の雇用項目も持ち直しており、雇用増ペースはそれほど落ち込んではいない模様である(市場予想の中心:NFP前月比17.5万人増、失業率6.7%)。そのほか、3日(月)に1月ISM製造業景気指数、5日(水)には1月ISM非製造業景気指数や1月ADP雇用統計の発表が予定されており、雇用統計を占う上でも注目したい。要人発言では、4日(火)にラッカー・リッチモンド連銀総裁やエバンス・シカゴ連銀総裁の講演があるほか、6日(木)にはプロッサー・フィラデルフィア連銀総裁やロックハート・アトランタ連銀総裁の講演などが予定されている。
- 欧州では、6日(木)にECB理事会が開催される。1月のECB理事会は現状維持が決定されたが、声明文で「フォワードガイダンスを「断固として繰り返す」との表現が挿入された。Q&Aの際に、ドラギECB総裁自身も「フォワードガイダンス強化を示すために我々はさらに強い表現を使用した」としている通り、どちらかと言えばハト派寄りの内容となった。ECBの「次の一手」が緩和であることはほぼ間違いなさそうだが、それが今回である必然性はない。1月理事会後にドラギ総裁は「我々が行動に至る2つのシナリオ」として「短期金融市場の正当化されない引き締め」と「インフレの中期見通し悪化」を挙げたが、前者に関し、ユーロ圏無担保翌日物平均金利(EONIA)は足許で0.20%を下回り、政策金利である0.15%近辺まで落ち着いているため、引き締めとまでは言えない。また、後者に関し、11月消費者物価指数(HICP)はコアベースで前年同月比0.7%上昇と過去最低を記録したものの、ドイツにおける特殊要因が効いた部分もあり、緩和に踏み切るほどの事由になるとは思えない。敢えて緩和に至る展開を想定すれば、理事会前までにユーロ高が進行するケースで、昨年来の高値圏である1.38台を超えてくれば、デysinフレ懸念の強まりから動く可能性はある。

	本 邦	海 外
1月31日(金)	-----	・米1月シカゴ購買部協会景気指数 ・米1月ミシガン大学消費者マインド指数(確報)
2月3日(月)	・1月自動車販売台数	・米1月ISM製造業景気指数
4日(火)	・1月マネタリーベース	・米12月製造業新規受注
5日(水)	-----	・米1月ADP雇用統計 ・米1月ISM非製造業景気指数
6日(木)	-----	・米12月貿易収支 ・ECB理事会(フランクフルト)
7日(金)	・12月景気動向指数(速報)	・米1月雇用統計

### 【当面の主要行事日程(2014年2月～)】

EU首脳会議(2月13～14日、ブリュッセル)  
 日銀金融政策決定会合(2月17～18日、3月10～11日、4月7～8日)  
 G20財務相・中央銀行総裁会議(2月22～23日、シドニー)  
 欧州中銀理事会(3月6日、4月3日、5月8日)  
 米FOMC(3月18～19日、4月29～30日、6月17～18日)

以 上

国際為替部  
 マーケット・エコノミスト  
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuho.com/jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年1月30日	欧州系銀行の新興国向けエクスポージャーなどについて
2014年1月28日	最近の日経平均株価の下落などについて
2014年1月27日	新興国市場の大荒れと円相場、当面の見通しなどについて
2014年1月24日	週末版(ユーロ圏11月国際収支について～需給面で支えられるユーロ相場～)
2014年1月23日	日銀金融政策決定会合を終えて～CPIピークアウトへの布石～
2014年1月22日	IMF世界経済見直し改定～ユーロ圏のデフレ確率は10-20%～
2014年1月21日	BIS実質実効為替レートで見た直近の円相場について
2014年1月20日	最近のEONIA(ユーロ圏無担保翌日物平均金利)上昇について
2014年1月17日	週末版(対外直接投資と円相場について～為替への影響は両サイド～)
2014年1月16日	燃料だけではなく「円安→輸入インフレ」の実態
2014年1月15日	円キャリー取引の検証～外銀本支店勘定は5年ぶりの水準へ～
2014年1月14日	潜在成長率が半減するユーロ圏～ユーロ圏四半期報告書～
2014年1月9日	週末版(ECB理事会を終えて～「悪いこと」に慣れ過ぎているECB、政策変更のトリガーが視界不良に～)
2014年1月8日	ECB理事会プレビュー～デフレ懸念を横目に現状維持～
2014年1月7日	2014年の円相場の見直し、論点おさらい
2013年12月27日	週末版
2013年12月26日	2013年を終えて～ブラザ合意以来の動きに挑む2014年～
2013年12月20日	週末版(動き出したユーロ圏単一清算基金(SRF)～主要論点の整理～)
2013年12月19日	FOMCを終えて～強まる「放って置けば円安」の地合い～
2013年12月18日	ユーロ圏労働コストから聞こえるデフレの足音
2013年12月17日	「アスムセンなき政策理事会」を考察する
2013年12月16日	最近の相場をどう解釈すれば良いのか
2013年12月13日	週末版(流動性逼迫とユーロ上昇、そして国債ウェイト問題などについて)
2013年12月10日	米7～9月期資金循環統計～米家計は約6年ぶりの貯蓄不足～
2013年12月9日	米11月雇用統計や年内taperingの行方などについて
2013年12月6日	週末版(ECB理事会を終えて～存在感を増す為替関連の問答～)
2013年12月5日	直近の対内・対外証券投資とドル建て日本株投資の過熱感
2013年12月4日	緩和観測は海外勢の希望的観測～春先に似る過熱感～
2013年12月3日	103円台と整合的な実質レート及び物価などを考える
2013年12月2日	ECB理事会プレビュー～現状維持も、リスクはM3か～
2013年11月29日	週末版
2013年11月27日	ECB、「次の一手」の整理～5つの選択肢を点検する～
2013年11月26日	ユーロ圏M3で見るユーロ相場の展望などについて
2013年11月25日	ECBも「連想ゲーム」に巻き込まれるのか
2013年11月22日	週末版(年金運用改革に係る雑感などについて～インフレ対策というよりも、諸外国対比の是正が主眼～)
2013年11月20日	本邦10月貿易統計などについて
2013年11月19日	最近の欧米資本フローから見る為替相場
2013年11月18日	再び挑むドル建て日経平均「150ドル」の壁
2013年11月15日	週末版(ユーロ圏7～9月期GDPなどについて～今後の焦点は加盟国間の成長率格差に～)
2013年11月14日	衆院解散表明から1年～「良いとこ取り」から「平常運転」へ～
2013年11月13日	バイトマン独連銀総裁による国債リスクフリーの否定を考える
2013年11月12日	ユーロ圏の主導するグローバルバランランスの拡大
2013年11月11日	11月ECB理事会について～ドラギ・プットの芽生え？～
2013年11月8日	週末版
2013年11月7日	生保下期運用計画などからみる円相場の今後
2013年11月6日	欧州委員会秋季経済見直し～不安な内需主導シナリオ～
2013年11月5日	ECB理事会プレビュー～11月は現状維持も論点は多数～
2013年11月1日	日銀金融政策決定会合を終えて～市場出身審議員による警鐘は重要～
2013年10月30日	ノボトニー発言の読み方などについて
2013年10月29日	2014年、ユーロ圏銀行同盟の一里塚に絡む不安
2013年10月28日	低下する円相場のボラティリティとユーロ/ドルの警戒サイン
2013年10月25日	週末版(ユーロ圏固有のユーロ買い要因を考える～過剰流動性減少やドイツ市場の活況～)
2013年10月22日	Jカーブ効果を語る時なのか？
2013年10月21日	勢いづく「敵失のユーロ高」の行方
2013年10月18日	外貨準備の民間委託報道などについて～「外貨準備の増加」は良いことか、悪いことか～
2013年10月11日	『2013年秋季IMF国際金融安定性報告書』について～分断化(fragmentation)の計量分析など～
2013年10月9日	2013年秋季IMF世界経済見直しについて
2013年10月8日	「火遊び」によるドル売りは買い場か
2013年10月7日	「2年で2%」の旗の降ろし方～日銀会合を終えて～
2013年10月4日	週末版(2大ドル売り材料を受けた為替相場の現状～ユーロは長期平均からも上離れへ～)
2013年10月3日	ECB理事会を終えて～芽生えるユーロ相場への高値警戒～
2013年10月2日	ECB理事会プレビュー～少なくとも期待するLTROアナウンス～
2013年10月1日	日銀短観(9月調査)～業況改善の裏で気掛かりなコスト環境～
2013年9月27日	週末版(対内証券投資を引き戻すカードはあるか～「期待に働きかける」局面を超えて～)
2013年9月26日	家計部門の外貨運用の現状と展望について
2013年9月24日	「決められないオバマ」はドル売り要因か？
2013年9月20日	週末版(13年6月末時点の本邦家計資産の状況～増加した内貨性リスク資産、減少した外貨性資産～)
2013年9月19日	FOMC(9月17～18日開催分)を終えて～4つの論点で考える～
2013年9月18日	欧米の証券投資動向と為替相場の関係などについて
2013年9月17日	次期FRB議長人事を巡る動向について
2013年9月13日	週末版(懐かしのパターン)を警戒するユーロ相場～俄かに高まる南欧債利回り～)
2013年9月11日	何故ドル相場の上値は重いのか？～4つの理由で考える～
2013年9月10日	日米金利差とドル/円相場について～2年「1%ポイント」が鍵～
2013年9月9日	五輪開催決定、雇用統計、そしてFOMCの読み方
2013年9月6日	週末版(ECB理事会を終えて～「次の一手」は意外に近いか～)
2013年9月5日	米貿易収支について～ドル買い相場の援軍に～
2013年9月4日	ECB理事会プレビュー～慢心なく現状維持へ～
2013年9月3日	9月末に注目する配当金と円相場の関係～ドル/円の重石？～
2013年9月2日	taperingの煽りを食らうのはユーロ？
2013年8月30日	週末版
2013年8月29日	対内・対外証券投資動向が示すドル/円の底堅い理由
2013年8月28日	「有事のドル買い」に至らない理由などについて
2013年8月26日	米7月新築住宅販売件数の急落などについて
2013年8月23日	週末版(次に売られそう新興国通貨は…～東欧通貨は乗り切れるのか～)
2013年8月22日	FOMC議事要旨(7月30～31日開催分)について
2013年8月21日	豪ドル相場の水準感について
2013年8月20日	新興国通貨の急落について～ラジャンでも手詰まり感拭えず～
2013年8月19日	本邦7月貿易収支について～遂に数量指数が増加へ～
2013年8月16日	週末版(ユーロ圏経済はテイクオフ(離陸)始めたのか？～「今がピーク」のリスクも～)
2013年8月14日	米7月小売売上高や米家計部門のB/S調整の進捗について
2013年8月13日	法人税減税とデフレギャップに求められる「新たな縮小余地」
2013年8月12日	本邦4～6月期GDPを受けて～3つの点からレビュー～